

2019年9月25日

2019年FIA-F4選手権シリーズ第6大会スポーツランドSUGO 参戦報告書

HFDP FIA-F4 監督 阿部正和

2019年FIA-F4選手権シリーズ

HFDP参加選手レポート

第6大会(第11戦/第12戦) 参戦レポート

9月21日(土)~22日(日)、スポーツランドSUGO(宮城県)でFIA-F4選手権シリーズ第6大会(第11戦、第12戦)が開催されました。HFDP(Honda フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト)からは#5 三宅淳詞(HFDP/SRS/コチラレーシング。1999年3月17日生。20歳)、#6 太田格之進(SRS/コチラレーシング。1999年6月18日生。20歳)、#7 佐藤蓮(SRS/コチラレーシング。2001年8月5日生。18歳)、#8 小山美姫(#USLETE Honda Racing。1997年9月5日生。22歳)が出場しました。

佐藤 蓮、6連勝でシリーズチャンピオンに輝く。

■公式予選(30分間) : 天候/曇り 路面/ドライ



30分間の公式予選は、土曜日午前8時10分から曇り空の下で始まりました。レースウィークに先駆けて水曜日と木曜日に設けられた練習走行セッションではHFDPの4人はタイムを突き詰められず、太田がトップから0秒157後れの3番手、以下三宅が4番手、佐藤が7番手、小山が17番手に終わりました。本番の公式予選では、コースオープンとともに4台はコースイン、早々に三宅がトップタイムを記録すると、佐藤がそれに続きました。太田はセッション中盤まで10番手近

くにいましたが、セッション残り10分となったところで三宅、佐藤に続く3番手にポジションアップ。セッションの結果、第11戦では三宅がポールポジションを獲得、2番手に佐藤、3番手に太田が続き、第12戦では三宅が連続ポールポジションを獲得、2番手に佐藤が続きましたが太田はセカンドタイムが伸びず、8番手に留まりました。小山は第11戦13番手、第12戦15番手につきました。



第11戦公式予選結果

予選1位	#5 三宅 淳詞	1分23秒560
予選2位	#7 佐藤 蓮	1分23秒783
予選3位	#6 太田 格之進	1分23秒852
予選15位	#8 小山 美姫	1分24秒455

第12戦公式予選結果（タイムアタックのセカンドタイム順に決定）

予選1位 #5 三宅 淳詞 1分23秒589
予選2位 #7 佐藤 蓮 1分23秒822
予選8位 #6 太田 格之進 1分24秒193
予選13位 #8 小山 美姫 1分24秒484

■第11戦決勝レース（17周）：天候/曇り 路面/ドライ



SUPER GT 公式練習終了後の午後12時50分、曇り空の下で17周の2019年シリーズ第11戦がスタートしました。ポールポジションの三宅はうまくスタートしましたが、イン側2番手グリッドにつけていた佐藤が1コーナーに向けてうまく加速して三宅のイン側に並び、そのまますり抜けてトップに立ちました。三宅がそれに続き、3番手には太田がつけましたが、太田はジャンプスタートと判定され、ドライブスルーのペナルティを受けて順位を落とすことになりました。

15番手スタートの小山は1つ順位を落として16番手でレースを始めました。

佐藤はオープニングラップのうちに三宅との間隔を0.4秒に開け、その後じりじり拡げていきました。三宅も太田が後退した後に繰り上がってきた3番手との間隔を大きく拡げていきました。トップの佐藤はレース半ば



にファステストラップを立て続けに更新、自らのポジションを確実にしていきました。佐藤-三宅の1-2体制が確立した9周目、コース上の停止車両を回収するためセーフティーカーが介入、13周目まで隊列走行となりましたが、14周目にレースが再開されても佐藤はトップのポジションを守り、そのままフィニッシュしてチェッカーフラッグを受けました。

今季8回目となる勝利により佐藤は最終大会を待たず今シーズンのシリーズチャンピオンとなりました。三宅は2位に入賞、小山は周回と激しい格闘を続け13位でフィニッシュ、ペナルティを受けた太田は18位でレースを終えました。

【FIA-F4選手権シリーズ第11戦・レース結果】

#7 佐藤 蓮 決勝1位 (28分13秒541 ベストタイム 1分24秒186)
#5 三宅 淳詞 決勝2位 (28分14秒114 ベストタイム 1分24秒490)
#8 小山 美姫 決勝13位 (28分24秒661 ベストタイム 1分24秒905)
#6 太田 格之進 決勝18位 (28分29秒903 ベストタイム 1分24秒603)

ファステストラップ：佐藤 蓮 (1分24秒186)

#6 太田 格之進は、反則スタートによりドライブスルーのペナルティが科された。

■第12戦決勝レース（17周）：天候/曇り 路面/ドライ



日曜日朝、天候悪化が予報されており今にも雨が降りそうな曇り空の下、ドライコンディションで17週のシリーズ第12戦が始まりました。午前8時59分、レッドシグナルが消えてレースがスタート。予選2番手の佐藤はいつものようにみごとな加速を見せ、ポールポジションの三宅は加速しながら進路を佐藤側に寄せて牽制しましたが、それをすり抜けて1コーナーまでに先頭へ立ちました。佐藤は一気にそのまま三宅との間隔を拡げ、オープニングラップのうちに三宅との間隔を1秒へ広げました。一方三宅もペースは悪くなく、佐藤を追って3番

手の選手を引き離して行きました。一方8番手スタートの太田は9番手へポジションを落とし、13番手スタートの小山は12番手へポジションを上げてレースを始めました。

第11戦同様、佐藤はレース中盤にファステストラップを連発してトップのポジションを安泰にしていきました。佐藤と三宅は1-2体制でレースをリード、後方では小山が格闘しながらさらにポジションを11番手へ上げました。8周目、コース上でアクシデントが発生しセーフティーカーが導入され隊列走行が始まりました。セーフティーカーは11周を終えるまで隊列を先導、レースは12周目から再開されました。



先頭の佐藤はうまく加速してポジションを守りましたが三宅はわずかに加速が鈍り3番手の選手に接近を許したものの、それ以降は再びペースを取り戻してじりじり間隔をひらき2番手のポジションを守りました。その後レースは大きな波乱もなくフィニッシュを迎えました。佐藤は危なげなく17周を走りきり通算6連勝、今季9勝目を記録しました。2位に三宅が入賞、小山は11位でレースを終えました。太田は9番手でフィニッシュしましたが、ファイナルラップの4コーナーで8番手の選手をオーバーテイクしようとして接触、相手選手が

スピンしたことについて危険なドライブ行為と判定され、競技結果に40秒加算のペナルティを受けて正式結果での順位は27位となりました。

【FIA-F4 選手権シリーズ第12戦・レース結果】

#7 佐藤 蓮 決勝1位 (27分26秒887 ベストタイム 1分24秒122)
#5 三宅 淳詞 決勝2位 (27分29秒363 ベストタイム 1分24秒414)
#8 小山 美姫 決勝9位 (27分38秒767 ベストタイム 1分24秒562)
#6 太田 格之進 決勝27位 (28分17秒970 ベストタイム 1分24秒509)
ファステストラップ：佐藤 蓮 (1分24秒122)

#6 太田 格之進は、危険なドライブ行為により競技結果に対して40秒加算のペナルティが科された。

■2019FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (2019 シーズン第12戦終了時点)

1 番手 #7 佐藤 蓮 261 点

2 番手 #5 三宅 淳詞 130 点

4 番手 #6 太田 格之進 115 点

16 番手 #8 小山 美姫 6 点

(1 位 25 点、2 位 18 点、3 位 15 点、4 位 12 点、5 位 10 点、6 位 8 点、7 位 6 点、8 位 4 点、9 位 2 点、10 位 1 点、)

■2019FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2019 シーズン第12戦終了時点)

1 番手 HFDP 300 点

(各チーム最上位のみ計上)



●ドライバーズコメント：#5 HFDP/SRS/コチラレーシング 三宅 淳詞



予選ではうまくクリアがとれてオートポリスから連続でポールポジションにつけたんですが、結局連続でスタートで前に行かれてしまうという、レースとして一番もったいない展開になってしまいました。何回も同じミスをしている自分が情けないです。日曜日はスタートで前に行かれただけではなくてレースペースにも差があったのでそういう部分も見なさなければいけません。F1の前座もありますし。土曜も日曜も、スタートで動き出しは悪くなかったんですが、

そこからのミートが悪くて全然前へ進まなくなってしまうんです。佐藤蓮はうまいなと思います。日曜のレースでもミラー見ていて後の選手は追いついてこないなと思ったんだけど蓮は先に行ってしまう。ぼくがまだ下手だということもあるけど蓮はやっぱりうまいです。次回もてぎまでにテストもありますし、もてぎでもしっかりポールを獲って今度はスタートを決めて優勝したいです。もてぎの最終戦と、鈴鹿のF1特別戦で、なんとかもう一段階レベルの高いレースをしたいと思っています。



●ドライバーズコメント：#6 SRS/コチラレーシング 太田 格之進



前回オートポリス同様、全然うまくいきませんでした。原因は今のところ自分ではわかりません。予選はペースが上がらない中でなんとかポールポジションを獲ろうという気持ちが前に出すぎてミスというか、ペースの遅いクルマに引っかかってしまってタイムが出せませんでした。セカンドタイムはもっと上にいかなくちゃ

いけなかったんだけど、根本的に何か足りていないと自分で感じています。今年の前半戦の勢いが今の自分にはなくなってしまうと思います。



●ドライバーズコメント : #7 SRS/コチラレーシング 佐藤 蓮



練習は余り調子が良くなくて、ある程度予選の予想をしてこのセットでいけるかなと臨んだんですけど、少しミスしてフロントのタイヤをロックアップさせてしまいました。それでも予選2番手になって、とりあえず闘える位置だったので良かったです。2番手スタートで抜けなくてもレース中に抜けるという自信があったのでとりあえず落ち着いてスタートしようと思っていました。土曜はスタートが決まって自分のペースで逃げ切って優勝でチャンピオンを決められた

のが一番嬉しいです。2位でチャンピオンになってもナニですから。日曜はまったく緊張せず、いつも通りのレースをしようと思っていました。スタートも完璧に決まって昨日よりもぶっちぎりでレースができたのでとても良かったです。スタートには自信があって、相手も少しミスしているので前に出られています。チャンピオンになったことについては実感がなくて今は自分ができることをきっちりとやるのが大事だと思っています。今は自信にあふれています。去年とは大違いです。



●ドライバーズコメント : #7 #USLETE Honda Racing 小山 美姫



練習では良くても本番になるとだめというのが続いてオートポリスでも同じだった。練習でのポジションは上がっていてポテンシャルは上がっていると思うけど本番になるとやっぱりダメ。練習から通してレースを組み立てられていないというアドバイスももらって納得しました。確かに通して考えられていませんでした。練習から積み重ねて本番の最後で結果を出せるようにしないといけないんです。今回も、やっと予選でスタート地点にたどりついた感じ。つまり

組み立てができていなかった。そこが今の大きな課題です。でも今までの自分ならこの週末、途中で走りを直せなかったと思うんです。レースでは、今まではクルマを壊さないように引き気味だったんだけど攻めていこうと思って走りました。メカニックが「レースなんだから、壊れたら直してやるから思い切って行け」と言ってくれたんです。順位はあまり変わらなかったけどレースラップは悪くなかったのと思います。周囲の動きもよく見て、今までの取り組み方を変えて、自分では攻めることができたし自分では内容のいいレースができたと思う。自分の苦手なを少しずつ改善できているように感じます。

